

流通経済大学 vs 順天堂大学

4月13日(日)
11:30K.O.
たつこのこ

今年は一味違うという戦いを、中大との開幕戦から見せた流経大。決して圧倒的な強さを発揮したわけではないが、試合終了間際まで0-0だったが、後半45分に値千金のゴールを奪って大きな勝点3をゲットした。

「引き分けで終わってしまうかというゲームを1-0で勝てたということが、何よりもよかった」(中野雄二監督)

こういったゲームで昨年は引き分けたり、逆に失点して勝点1すら落とすことが多かっただけに、接戦をしつかりと勝点3を結びつけたことは大きい。

「危険な場面も多かったが守備が安定していた。攻撃もボールの動かし方やとらえ方など悪くなかった。なかなか点が入らなかったが、多少慎重にやっていたと思うし、緊張していたと思う。その試合を0-0で終わるか、1-0で勝つかは、この1年を考えると大きく変わってくる」(中野監督)

ただ、攻撃に関していうと、ボールをポゼッションの高さやセットプレーが多かったわりには、得点に結びつかなかった。優勝のためには、さらなる質が必要だ。

筑波大を2-0で下した順大だが、「この1年間でやっていこうとしている中身が、どれく

らいできているのかをチェックしようと思った。やらなければならない部分を徐々に挙げていかないといけないということ、この段階ではまだきちんとコンセプトが浸透していないと感じた」(吉村雅文監督)

2-0で勝利を収めたが、前半45+1分に相手選手が退場して数的優位に立ったことにも助けられた。

「開始5分でまぐれのシュートが入った。相手が裏へ裏へとこないで、つなぐことを優先してくれたので、決定的な失点シーンがなかったのは助かった」(吉村監督)

昨年の対戦：前期/流経大0-0順大、後期/流経大2-2順大

流経大		順大	
6. 富田	26. 原田	3. 吉永	
4. 鈴木	9. 田上	20. 佐野	5. 新井
10. 野口		10. 長谷川竜	30. 今川
1. 中島	5. 川崎	8. 西谷	15. 青木
	25. 古波津		
	19. 立花	24. 室伏	4. 谷奥
26. 藤原			
2. 湯澤	22. 米田	13. 宮本	

筑波大学 vs 中央大学

4月13日(日)
13:50K.O.
たつこのこ

前半6分の失点、そして45+1分に退場者を出してしまったことが影響し、順大相手に0-2の敗戦を喫ってしまった筑波大。

「自分たちで試合を難しくしてしまい、やりたいことを攻守においてうまくできなかった」(小井土正亮コーチ)

丁寧にボールを扱って自分たちが主導権を握り、前に運んでチャンスを作るというゲームプランに対し、相手に脅威を与えるまでには至らなかった。

「相手に怖いと思わせるような攻撃を考えていかないといけない」(小井土コーチ)

ボールをつなぐことを意識しすぎて、ゴール前になかなかボールを運べず、シュート数も5本と少なかった。

「1試合、1試合積み重ねてシーズンを通して成長していかないといけない」(小井土コーチ)

流経大に0-1の敗戦を喫してしまった中大。0-0のスコアレスドローに終わりそうだった試合終了間際の後半45分に失点してしまい、勝点1すらも失ってしまった。

「終わり方が悪く後味の悪いゲームになってしまったが、リーグ戦初戦とかいろいろなことを考えううえで、最後の1失点ですべてが悪いとは判断できない」(白須

真介監督)

1失点以外の守備に置いては、オーガナイズはしっかりとされていた。最後のところで球際が甘くなってしまい、セカンドボールを拾えなかった。また、「点も取れていないので点を取れるような攻撃をしていかないといけない」(白須監督)

攻守に反省点はあるが、決して悪いばかりの内容ではない。ここからしっかりと勝点に結びつけていきたい。

出場停止：三宅智大(筑波大)

昨年の対戦：前期/筑波大0-2中大、後期/筑波大1-1中大

筑波大		中大	
3. 三丸	26. 翁長	12. 渡辺	
	29. 中野誠		
7. 車屋	19. 岩淵	5. 岡崎	
	14. 吉田	25. 三島	
1. 岩脇	10. 中野嘉	28. 北川	1. 前田
	6. 片岡		6. 秋元
5. 西村	9. 内田	3. 小出	
	8. 早川		
2. 田代	11. 古橋	22. 新藤	

※布陣は前節のメンバーを参考にした予想

JR東日本カップ 2014 第88回 関東大学サッカーリーグ戦



OFFICIAL MATCHDAY PROGRAM

VOL.26-NO.2 Division1



編集：加茂郁実 発行：(一財)関東大学サッカー連盟 協力：関東大学サッカーサポーターズクラブ

専大、早大、流経大が好スタート!

激戦の「JR東日本カップ2014 第88回関東大学サッカーリーグ戦」がいよいよ開幕。4連覇に向けて専大が好スタートを切ったが、各チームの開幕戦の戦いを振り返ってみよう。

3年ぶりに1部復帰を果たした駒大と昨年のチャンピオン・専大のゲームは、27分に専大が先制点を奪うと前半のうちに2得点。後半は一気に攻め立て4ゴール。駒大は必死に反撃を試みたものの、無得点。6-0で専大が圧勝した。

優勝を目指す早大と、昨年、圧倒的な強さを見せ2部優勝を果たし、1部に昇格した東国大との一戦は、早大が終始圧倒。前半43分に先制点を挙げ、後半は攻めあぐんだもののアディショナルタイムに2点目を奪い、2-0で勝利を収めた。

優勝候補の筆頭に挙げられる明大と、昨年、残留争いに苦しんだ慶大の一戦は、前半5分、後半33分にゴールを奪った慶大が2-0で勝利。明大はチャンスがあったものの、慶大の堅守を崩し切れなかった。

流経大 vs 中大は手に汗握る接戦となったが、全体的に試合を優位に進めた流経大が後半45分に値千金のゴールを奪い、勝点3をゲットした。中大は最後、守りきれなかった。

筑波大と順大のゲームは、前半6分に順大が先制点をゲット。一方の筑波大は、前半のアディショナルタイムに三宅智大(2年)が2枚目のイエローカードを受けて数的不利になったことも影響。後半30分に順大が追加点を奪って、2-0の完封勝ちを収めた。

昨年の後半戦に圧倒的な強さを見せた国士大と、昨年、1部に昇格した桐蔭大の試合は、前半25分にPKから国士大が先制点を奪うと、35分には雷雨のため一時中断。その後、互いに自分たちらしさを発揮したが、両チームともゴールを奪うことはできず、1-0で国士大が白星スタート。桐蔭大は悔しい一戦となってしまった。

明大、筑波大が敗れるという波乱もあったが、専大、早大、流経大は順当に白星スタート。2節ではどういった戦いが見られるのか、早く目が離せない展開だ。

JR東日本カップ 2014 [第88回] 関東大学サッカーリーグ戦 星取表

順位	チーム名	専大	早大	順大	慶大	国士大	流経大	中大	桐蔭大	明大	筑波大	東国大	駒大	試合数	勝数	敗数	引き分け	得点	失点	得失点差	勝点
1	専大		6月15日	5月5日	4月20日	5月10日	5月2日	4月27日	4月16日	5月24日	5月17日	4月12日	6-0	1	1	0	0	6	0	6	3
2	早大	味フィ西		4月16日	5月6日	5月18日	5月10日	4月19日	4月26日	5月3日	5月25日	2-0	4月12日	1	1	0	0	2	0	2	3
2	順大	フクアリ	江戸陸		5月10日	5月2日	4月13日	6月15日	4月19日	4月27日	2-0	5月24日	5月17日	1	1	0	0	2	0	2	3
2	慶大	味フィ西	味フィ西	フクアリ		4月12日	5月18日	4月16日	6月15日	2-0	4月27日	5月3日	5月24日	1	1	0	0	2	0	2	3
5	国士大	味フィ西	味スタ西	江戸陸	味スタ西		5月5日	5月24日	1-0	6月14日	4月20日	4月26日	4月16日	1	1	0	0	1	0	1	3
5	流経大	江戸陸	たつこのこ	たつこのこ	たつこのこ	たつこのこ		1-0	5月24日	4月16日	6月14日	4月20日	4月26日	1	1	0	0	1	0	1	3
7	中大	三ツ沢陸上	味フィ西	味フィ西	BMW	川口	0●1		5月5日	5月18日	4月13日	5月10日	5月2日	1	0	0	1	0	1	-1	0
7	桐蔭大	BMW	古河	味フィ西	古河	0●1	たつこのこ	夢の島		4月12日	5月2日	5月17日	5月10日	1	0	0	1	0	1	-1	0
9	明大	川口	味スタ西	味スタ西	0●2	味フィ西	たつこのこ	味スタ西	駒沢陸上		5月10日	5月6日	4月20日	1	0	0	1	0	2	-2	0
9	筑波大	たつこのこ	BMW	0●2	味スタ西	ひたちなか	味フィ西	たつこのこ	三ツ沢陸上	味フィ西		4月16日	5月6日	1	0	0	1	0	2	-2	0
9	東国大	夢の島	0●2	千葉東総	BMW	多摩	ひたちなか	フクアリ	たつこのこ	味フィ西	たつこのこ		6月15日	1	0	0	1	0	2	-2	0
12	駒大	0●6	駒沢陸上	ゼットエー	たつこのこ	三ツ沢陸上	多摩	三ツ沢陸上	保土ヶ谷	味フィ西	駒沢陸上	古河		1	0	0	1	0	6	-6	0

体育会学生のための

リクナビ就職エージェント

ただ、自分に勝ちたい。

部活と就活にエールを送る! 体育会学生のための「リクナビ就職エージェント」

リクナビ 体育会



RECRUIT

明治大学 vs 桐蔭横浜大学

4月12日(土)
11:30K.O.
駒沢陸上

優勝候補筆頭の明大だが、慶大に0-2といきなりの黒星。スタートでつまずいてしまった。

「開始5分の失点がゲームを非常に難しくしてしまった」(神川明彦監督)

攻撃力にも自信を持つ明大だが、慶大の徹底した守備を崩すことができなかった。非常にスムーズに攻撃をして、何度となくチャンスを演出。前半はシュート1本だったが後半は9本ものシュートを放ち、試合を優位に進めたが、結局、ゴールに結びつけることができなかった。決定力不足の課題が大きく残った。

また、安定した守備が定評だったが、「2失点目は入る前に球際で3回くらい負けている。それが最終的に失点につながってしまった。あそこは反省しなければならない」(神川監督)

開幕戦ということで、やや慎重になってしまったのかもしれない。

開幕戦は国士大に0-1と、悔しい敗戦になってしまった桐蔭大。

「初戦ということで難しい試合だったが、いい入り方をしてくれたと思う。結果がついてこなかったため残念だ」(八城修監督)

試合内容は決して悪くなかったが、そこで点を取りきれず完封負け。昨年もこういった試合を落としてしまうことが多かっただけに、今後は接戦をモノにできるかがポイントだ。

「拮抗した試合では、ちょっとしたスキやチャンスを生かせなければ勝てない。お互いにチャンスを逃していた。もっと練習から厳しいなかでなければいけない」(八城監督)

黒星スタート同士の対戦。初白星をつかむのは!?
昨年の対戦：前期/明大3-2桐蔭大、後期/明大3-1桐蔭大

明大		桐蔭大	
6. 高橋	8. 石原	8. 山崎	34. 佐藤
4. 小出	18. 苅部		4. 古澤
	17. 小谷		5. 大野
1. 三浦		28. 石川	13. 岡本
	7. 差波		12. 金子
3. 山越	9. 矢島		3. 長谷
2. 室屋	11. 藤本	7. 山根	18. 佐々木

専修大学 vs 東京国際大学

4月12日(土)
13:50K.O.
夢の島

開幕戦で駒大を6-0と圧倒。さすが、昨年のチャンピオンという戦いを見せた専大。

「出来すぎの結果だと思う」と、源平貴久監督も驚きの表情を浮かべた。

「守備には不安があったが、今日に関してはここ3年間で最もよかったと思う。安定していた」(源平監督)

ここ数年、守備にずっと課題を抱えていただけに、相手に攻められるシーンがあったものの、シュート1本に抑え、しっかりと守りきったのは今後につながるはずだ。一方、自信を持っている攻撃面では、「個の力に頼りすぎていたと思う。6得点だったが、中身のある攻撃ではなかったと感じる」(源平監督)

「内容があまりよくなかったので、そこを改善したい。大量得点の次の試合になるが、慢心を捨てて臨みたい」(源平監督)

早大に0-2の敗戦を喫した東国大。「1部リーグの洗礼を受けた。判断力やスピードの違いを感じた。慣れていなくて、前半は選手たちも戸惑ったと思う。そこで失点してしまった。学ぶことばかりだった」(前田秀樹監督)

思うような戦いができなかったものの、「後半は相手の疲れもあって、徐々に仕掛けたり高い位置でボールを奪い、いいリズムを作れることもあった」(前田監督)

「守備には不安があったが、今日に関してはここ3年間で最もよかったと思う。安定していた」(源平監督)

思うような戦いができなかったものの、「後半は相手の疲れもあって、徐々に仕掛けたり高い位置でボールを奪い、いいリズムを作れることもあった」(前田監督)

「守備には不安があったが、今日に関してはここ3年間で最もよかったと思う。安定していた」(源平監督)

「守備には不安があったが、今日に関してはここ3年間で最もよかったと思う。安定していた」(源平監督)

「守備には不安があったが、今日に関してはここ3年間で最もよかったと思う。安定していた」(源平監督)

「守備には不安があったが、今日に関してはここ3年間で最もよかったと思う。安定していた」(源平監督)

専大		東国大	
5. 小口	11. 前澤	22. 菅原	29. 新聞
6. 河津		4. 加藤	15. 舩田
	7. 北出		10. 若井
1. 福島	38. 廣瀬	9. 山川	
	8. 星野		8. 上船
3. 萩間		9. 福島	5. 鈴木
2. 北爪	10. 仲川	7. 小玉	6. 今泉

早稲田大学 vs 駒澤大学

4月12日(土)
13:50K.O.
駒沢陸上

開幕戦で東国大を2-0で下した早大。前後半の終了間際にゴールと、いい時間帯に得点を挙げたが、

「勝てたことはよかったが、後半は特に攻守においてアグレッシブさを欠いてしまった」(古賀聡監督)

優勝を目指すためにも、まだまだ力不足を反省。やや慎重になったのかもしれない。

「前半は攻守の切り替えの速さや、相手陣地でのプレッシャーがしっかりとできていた。相手の攻撃の質を下げることでできていたが、前半からゴールへ向かう姿勢は低かったと思う」(古賀監督)

アグレッシブな守備から、そのまま勢いよく前線までもっていくような攻撃を仕掛けていきたい。

「相手陣地でプレッシャーをかけていくことと、相手陣地でもっと貪欲に向かって厚みをつけていくことを求めて修正していきたい」(古賀監督)

3年ぶりに1部に復帰した駒大。持ち味の力強さを発揮したいところだったが、昨年のチャンピオン・専大の前に0-6の完敗を喫してしまい、1部の壁の高さを実感。しかし、これで弱気になるような駒大ではない。

「残念な結果。ただ、大敗したのは学生にとっていい結果になったと思うので、次は死にもの狂いでやっていき

たい」(秋田浩一監督)

6失点と守備が崩壊した格好だが、果敢に攻めていった結果。

「相手とは決定力に差があった。駒大の選手たちは、サイドチェンジなど早い攻撃を正確にやるのは難しいか……」(秋田監督)

質の部分でやや劣った部分はあるが、そこは駒大らしい必死さや迫力あるプレーで打開していききたいところ。まずは1点を奪いたい。

昨年のリーグ戦での対戦はなし

早大		駒大	
20. 平澤	14. 堀田	7. 平野	13. 大木
3. 田中進	9. 宮本		3. 川岸
	6. 近藤洋	9. 小牟田	
1. 松澤		14. 中村	
	23. 園田	10. 板倉	5. 伊藤
		21. 積田	
2. 奥山	11. 山内		4. 平尾
22. 新井	7. 近藤貴	11. 小牧	32. 竹澤

国士舘大学 vs 慶應義塾大学

4月12日(土)
13:50K.O.
味スタ西

桐蔭大を1-0で下して白星スタートを切った国士大。試合自体は前半、雷雨で中断するなどモチベーション的に難しい部分が多かったが、

「リーグ戦の初めということで内容が求められると思うが、とにかく結果が出てよかった」

と、細田三二監督もホッとした表情を浮かべた。

「後半はリードしていたが、前半にあった中断によってベースが落ちた。一つひとつのプレーの精度が甘くなっていた。相手は後半にボールを回せるようになってきたため、危ない場面があった。ツメが甘い場面があった」(細田監督)

「後半はリードしていたが、前半にあった中断によってベースが落ちた。一つひとつのプレーの精度が甘くなっていた。相手は後半にボールを回せるようになってきたため、危ない場面があった。ツメが甘い場面があった」(細田監督)

「後半はリードしていたが、前半にあった中断によってベースが落ちた。一つひとつのプレーの精度が甘くなっていた。相手は後半にボールを回せるようになってきたため、危ない場面があった。ツメが甘い場面があった」(細田監督)

「後半はリードしていたが、前半にあった中断によってベースが落ちた。一つひとつのプレーの精度が甘くなっていた。相手は後半にボールを回せるようになってきたため、危ない場面があった。ツメが甘い場面があった」(細田監督)

「後半はリードしていたが、前半にあった中断によってベースが落ちた。一つひとつのプレーの精度が甘くなっていた。相手は後半にボールを回せるようになってきたため、危ない場面があった。ツメが甘い場面があった」(細田監督)

「後半はリードしていたが、前半にあった中断によってベースが落ちた。一つひとつのプレーの精度が甘くなっていた。相手は後半にボールを回せるようになってきたため、危ない場面があった。ツメが甘い場面があった」(細田監督)

開幕戦で優勝候補筆頭の明大を2-0の完封で下したことは、チームに自信も与えた。

「守備がよかった。相手のボールホルダーに自由にやらせなかった。相手も強かったから抜かれることもあったが、最後は体を張ってよく守っていた」(須田監督)

相手のクロスに対し、何度か中がフリーになったりするマークのずれはあったものの、気迫で乗り切った。

「苦しいゲームをどれだけ集中して、失点を0にして勝点を積み上げるかが大切」(須田監督)

昨年の対戦：前期/国士大2-3慶大、後期/国士大2-1慶大

国士大		慶大	
12. 藤寄	10. 進藤	8. 山浦	3. 溝溝
5. 仲島	29. 内山	15. 宮地	6. 望月
	6. 海野		25. 小坂
21. 久保田			
	8. 松本		10. 端山
13. 端	11. 平松	26. 加瀬澤	5. 並木
7. 橋	20. 田中	11. 増田	4. 保田

※布陣は前節のメンバーを参考にした予想